

カーボンリサイクル・火力発電の脱炭素化技術等国際協力事業

資源エネルギー庁
資源・燃料部 石炭課

令和4年度概算要求額 6.5億円（新規）

事業の内容

事業目的・概要

- 2050年CNに向け、CO2を原料として捉え再利用するカーボンリサイクルは経済と環境の好循環を実現するために鍵であり、グリーン成長戦略においても重要分野と位置づけられています。
- 国内企業等の技術開発や社会実装に向けた取組が進展していることから、我が国の優れたカーボンリサイクル技術やノウハウに関する国際協力や海外展開を実施することで、世界規模での脱炭素化に責任を持って取り組むことができます。
- また、火力発電については、これを使わざるを得ない状況にある国々もあることから、我が国は、相手国の発展段階に応じた政策形成に建設的に関与し、火力発電の脱炭素化（最新鋭の高効率発電、バイオ・アンモニア混焼技術、IGCCや環境負荷低減技術等）について、各国と協力を実施していきます。
- こうした事業は、相手国関係者の招へい、人材育成、専門家派遣、技術交流・調査、国際会議やセミナー等を通じて実施し、我が国技術やノウハウの国際的な展開を目指します。

成果目標

- 令和4年から令和8年までの5年間を通じ、5件以上の我が国技術等を活用した案件の成立を目指します。

条件（対象者、対象行為、補助率等）



事業イメージ

（１）カーボンリサイクルの普及・展開

- 世界的な潮流となっている2050カーボンニュートラルの実現に向け、CO2排出を大幅に低減していくために必要なカーボンリサイクルについて、事業関係者の招へいや技術交流・調査事業等を通じて、我が国技術等の国際的な展開を目指します。
- また、カーボンリサイクル技術の国際的な普及のため、「カーボンリサイクル産学官国際会議」を始めとする会議・セミナー開催等を通じ、各国における技術の導入のための環境整備を図ります。

（２）火力の脱炭素化技術の国際協力

- 我が国を含め、火力発電を使わざるを得ない国々も多くある中で、既設の火力発電所の改善を含め、火力発電の脱炭素化技術は地球温暖化対策として、有効な手段です。我が国の技術に関心を有する国々に対し、相手国政府や電力事業関係者の招へいやセミナー、人材育成や専門家派遣等を通じ、脱炭素化に貢献するような先進的な技術の導入のための環境整備を行います。



2020年10月
第2回カーボンリサイクル産学官国際会議

